

## 2 事業別調査研究記録

年報未掲載論文抄録（昭和48年度分）

（昭和48年度札幌市公衆衛生業績集に本文掲載）

### <1>疫学関係

① 「札幌市の女子生徒における風疹のHI抗体保有状況について（昭和48年）」

太田・熊谷・岸・前田・渡辺

札幌市の女子生徒（9～21歳）332名を対象に風疹のHI抗体値を測定した。小学校においては、その陽性率に地域的な差がみられた。

また、20～21歳での陽性率は、70年の調査に比べ若干低下していた。

（第25回北海道公衆衛生学会）

② 「Salmonellaの研究（河川のSalmonella）」

岸・東海林・白石（圭）・熊谷・太田・山田・中村・前田・渡辺

札幌市における3主要河川、30支流河川を対象にSalmonellaの検査をおこなった。検出菌型は12菌型43株で、Sal, typhimuriumが25株で50%以上しめていた。また大腸菌群が多いほどSalmonellaの汚染度が高い傾向がみられた。

③ 「最近数年間の食中毒発生状況と食中毒起因菌分布調査」

白石（圭）・山田・中村・岸・東海林・熊谷・太田・前田・渡辺

昭和43～48年の過去6年間における食中毒発生例を中心としてその検出菌種別（サルモネラ・ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、ウェルシュ菌）について種々の考察をおこなった。

④ 「昭和48年札幌市におけるインフルエンザA-香港型の流行について」

渡辺・岸・熊谷・太田・山田・白石（圭）・東海林・前田

市内小中学校の生徒540名を対象にインフルエンザの流行予測ならびに実態調査をおこなった。また、アンケート調査も同時に行い、各種症状とHI価との関連、ワクチン接種の有無と罹患状態についても調査した。

（第25回北海道公衆衛生学会）

（第32回日本公衆衛生学会）

⑤ 「インフルエンザ新顔B73型について」

熊谷・岸・太田・前田・渡辺

札幌市において昭和48年4月中旬～6年月中旬にかけて大流行したインフルエンザB73型について、ウイルス分離と同時にこのウイルスに対する学童のHI抗体保有状況などについて疫学的考察をおこなった。

（第25回北海道公衆衛生学会）

（第32回日本公衆衛生学会）

⑥ 「毛髪中の重金属定量について」

佐藤（勇）・山下・田口・渡辺

60歳以上の男女各20名について、毛髪中重金属濃度(Hg, Pb, Cd, Zn, Cu, Mnの6元素)を調査した。その結果、Hg以外の重金属の濃度平均値において男女間に有意差をみとめた。

(環境庁委託研究費)

## <2> 理化学関係

### ⑦ 「水に混入した油の分析」(第1報)

和田・多田・清水・水木・富所

水に混入した灯油・軽油・ガソリンの識別はガスクロマトグラムの違いにより可能であり、微量の場合はn-ヘキサン抽出で約0.3ppmの灯油を識別定量することができた。

(昭和48年度札幌市研究費)

(第11回全国衛生化学技術協議会総会)

### ⑧ 「添加物の測定法に関する調査研究」(第1報)

一酸化防止剤の定量法について

大森・白石(由)・川越・富所

GCによるBHT, BHAの定量法を検討し、二硫化炭素試験溶液を用いることにより感度を10数倍まで上げることができた。

(昭和48年度札幌市研究費)

### ⑨ 「魚介類の水銀汚染調査」

鈴木(俊)・小林・大森・大谷・白石(由)・水木・川越 富所

市場入荷の道産海産の魚介類の総水銀とメチル水銀含有量を調査した結果、汚染水域に比べて低い値を得た。

(第25回北海道公衆衛生学会)

### ⑩ 「河川の汚染状況調査」(第2報)

一豊平川(札幌市)に棲息する魚類の農薬・PCB汚染について

大谷・小林・鈴木(俊)・川越・富所

棲息魚のふくどじょうでは前報より総BHC, 総DDTの蓄積量の減少がみられた。また、燐系農薬は不検出, PCBは低い値であった。うぐいはふくどじょうよりも塩素系農薬, PCB含有量ともに低く、燐系農薬は不検出であった。

(昭和48年度札幌市研究費)

### ⑪ 「食品中のPCT分析に関する研究」(第1報)

大谷・鈴木(俊)・川越・富所

PCTとPCBはシリカゲルカラムで溶出液にn-ヘキサン, 6%エーテル含有n-ヘキサンをを用いることによりGCで分離定量できた。

(第26回北海道公衆衛生学会)

## <3> 公害関係

### ⑫ 「n-ヘキサン抽出物質に関する基礎的検討」

佐藤(泰)・宮下・田坂・清水

n-ヘキサン抽出物質(JIS法)では灯油以下の軽い油は測定されず、重油等でも回収率が悪いことがわかった。

⑬ 「BOD測定法に関する基礎的検討」(その1)

-フェノールの影響-

佐藤(泰)・魚谷・田坂・清水

フェノール濃度に比例してBOD値は正の妨害を受けることがわかった。

⑭ 「原子吸光法の前処理について」(第1報)

盛田(盛)・盛田(恵)・清水・田坂・松井

Zn, Mnについては検水を塩酸酸性にし、直接原子吸光で測定してよいが、Cd, Cu, PbについてはDDTC抽出の方が優れていることがわかった。

⑮ 「鉄を多量に含有する試料(セメント類)中のクロムの定量」

高田・清水・田坂

クロムの含有量が多い場合、原子吸光法で試料と同濃度の鉄を標準列に添加することにより満足する結果が得られた。

## (編集後記)

第2号の編集にあたっては、基本的には創刊号の形態を踏襲したが、部分的には多少手なおしをし、見易くしたつもりである。

しかし創刊後、日も残いので、編集要領等も未だ決っておらず試行錯誤が多く、読みにくい所もあると思うが、御容赦願いたい。

発行時期についても、予算の関係から本号は年度内になったが、これ等については、他の所報にない、次年度の秋頃とした方が良いでしょう。

先進(?)衛研に比べ、本所はルーチン業務が多く、研究論文の投稿状態が気がかりであったが、前号を上まわる原稿が集まり、編集子をほっとさせた。御協力下さった所員一同に深く感謝する。願わくば、量的だけでなく質的にも向上したものであって欲しいが、それ等の評価については、皆様の厳しく、且つ温かい審判を待つ次第である。

最後により価値ある年報に育てるため、皆様の御協力を切に願います。

(S50. 3. 31 富所 謙吉 記)

### ・編集委員

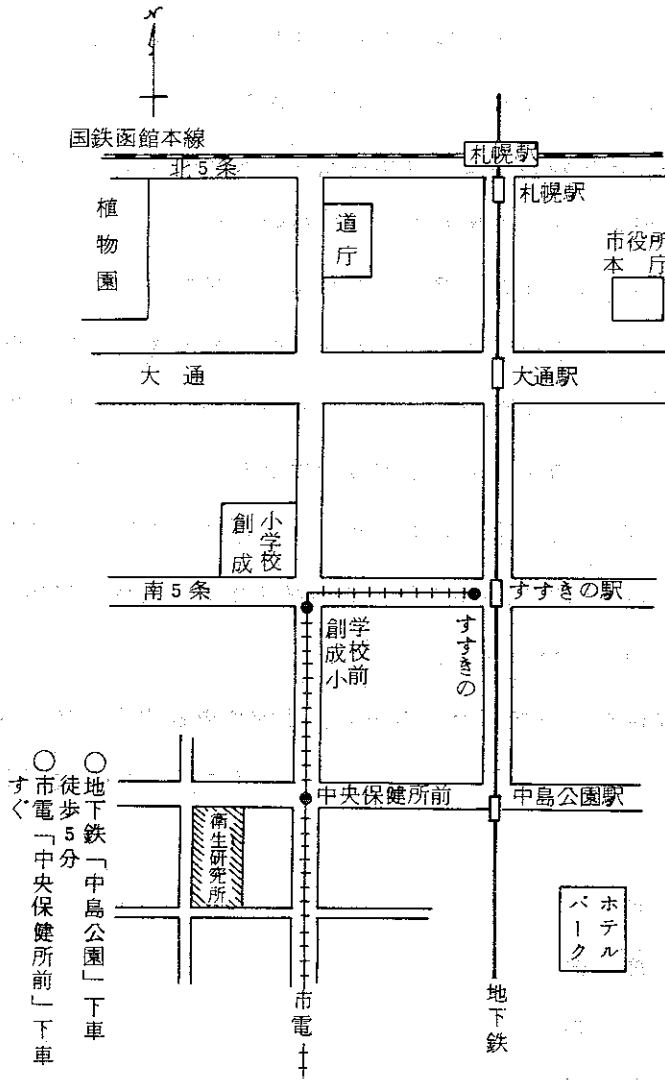
富所 謙吉

藤井 清

佐藤 敏雄

工藤 いち子

和田 光正



＝ 札幌市衛生研究所案内図 ＝

064 札幌市中央区南9西7 代表TEL(011)511-7221